

資料 19 国譲り神話の内容の変遷

	記載箇所	成立時期	要 旨
①	「書紀」 神代第九段 本文	5C 後半頃	・高皇産霊が、瓊瓊杵を葦原中国の君主にしようと、使者を遣わした。 ・天穗日、武日照、天若彦は大国主に取り込まれ復命しなかった。 ・経津主と武甕槌が、武力を背景に、大国主に国譲りを迫った。 ・大国主は、事代主の国を献上するようにとの進言を受け、広矛を二神に授けて退去した。
②	「書紀」 神代第九段 一書第二	6C 中頃	・高皇産霊が、葦原中国平定のため、経津主と武甕槌を遣わした。 ・経津主と武甕槌は、大国主から反論され、高皇産霊に報告した。 ・高皇産霊は、国譲りの条件に、統治の分担（大国主は幽界の神事）と天日隅宮の造営等を提示するとともに、<u>大国主の祭祀は天穗日が掌ると勅した。</u> ・大国主はこれを受け入れ隠れた。 ・<u>大物主と事代主が八百万の神を率いて天に上り、高皇産霊に忠誠を申し述べた。</u>
③	「古事記」 神代 天若日子、 国譲りの段	7C 後半～ 8C 初め	・天照大御神が、葦原瑞徳国は天忍穗耳が治めるべき国であるとして天降らせた。 ・天忍穗耳は地上が騒がしいと天照大御神に報告した。 ・高御産巢日と天照大御神は、地上平定のため天菩比、次いで天若日子を遣わしたが、どちらも大国主に取り込まれ復命しなかった。 ・天照大御神は建御雷に天鳥船を副えて地上に送った。建御雷は武力を背景に大国主に国譲りを迫った。 ・大国主は、事代主と建御名方の意見を聞くよう求めた。事代主は国の献上を進言して隠れた。建御名方は建御雷に抗ったが降参した。 ・大国主は、国譲りに応じたが、その条件に自分の住处として宮殿の造営を求めた。そこで多藝志の小濱に天の御舎が造営された。
④	「書紀」 神代第九段 一書第一	7C 後半～ 8C 初め	・天照大神が天稚彦に、葦原中国は天忍穗耳が君主たるべき国であるが邪神いるので平定せよと命じた。 ・天稚彦は国神の娘を娶り復命しなかった。 ・天照大神は天忍穗耳を降らせた。天忍穗耳は、天浮橋から葦原中国が乱れているのを見て天上に還り、降れなかったと報告した。 ・天照大神は、武甕槌と経津主を遣わし、まず悪神を駆除した。 ・二神が大国主に国譲りを迫ると、大国主は、事代主に意見を求めた。 ・大国主は、事代主の、天神の求めに背くことはできないとの答えを聞くと、その通りに二神に返答した。 ・二神は、葦原中国は平定し終えたと復命した。

- ・各国譲り神話の詳細は、①については本ブログ第 9 回を、②～④についてはブログ第 12 回を参照されたい。
- ・②の下線部は、ブログ第 12 回で触れたように、後世の加筆と思われる。